

教科	保健体育	科目名	保健	単位数	1
学科	全	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	現代保健体育(大修館)				
副教材など	現代保健体育ノート				

1. 科目の目的

○健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康課題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとし、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことを目的とします。

2. 授業の内容と進め方

○教科書をベースとし、単元に応じた事例やデータを準備し、授業を行っています。

3. 学習する上での留意点

○現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりとその活用について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに、それらの内容にかかわる技能を身に付けることを目指す。
○健康にかかわる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現することができるようになることを目指す。
○自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育てることによって、生徒が現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指す。

4. 課題等について

○必要に応じて保健ノートの課題提出を課することもあります。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができているかを評価します。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うことができているかを評価します。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができているかを評価します。

6. 評価の方法

【 知識・技能 】 各考査、小テスト等

【 思考・判断・表現 】 ノート、プリント、小テスト、グループ学習、発表等

【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、グループ学習、発表等

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等	
一 学 期	4 5 6 7 9	3 生涯を通じる健康	第3章 生涯を通じる健康	【知識・技能】	
		1. ライフステージと健康	○生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることが理解できるようになる。	各考査、小テストなど	
		2. 思春期と健康			
		3. 性意識と性行動の選択	○労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることが理解できるようになる。	【思考・判断・表現】	
		4. 妊娠・出産と健康	【思考・判断・表現】	ノート、プリント、小テスト、グループ学習、発表等	
		5. 避妊法と人工妊娠中絶	○生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。		
		6. 結婚生活と健康	【主体的に取り組む態度】	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようになる。	【主体的に学習に取り組む態度】
		期末考査			
		7. 中高年期と健康			
		8. 働くことと健康			
二 学 期	10 11 12 1	4 健康を支える環境づくり	第4章 健康を支える環境づくり	【知識・技能】	
		1. 大気汚染と健康	○人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとしよう基準が設定され、それに基づき行われていることが理解できるようになる。		
		2. 水質汚濁、土壌汚染と健康			
		3. 環境と健康にかかわる対策	○食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること、また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることが理解できるようになる。		
		4. ごみの処理と上下水道の整備	○生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること、また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることが理解できるようになる。		
		期末考査			
		5. 食品の安全性			
		6. 食品衛生にかかわる活動			
		7. 保健サービスとその活用	○我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることが理解できるようになる。		
		8. 医療サービスとその活用	○自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること、また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることが理解できるようになる。		
三 学 期	2	10. さまざまな保健活動や社会的対策	【思考・判断・表現】	○健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。	
		11. 健康に関する環境づくりを社会参加	【主体的に取り組む態度】	○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようになる。	
		学年末考査			